シンガポールで暮らし，働くことで見えてきたシンガポールの凄さ

第 1 期 OB　柳川 政人

現役生時代の著者

2011 年 4 月，私は日本郵船株式会社のシンガポール駐在として，シンガポールに人生で初めて降り立ちました。シンガポールは東京 23 区とほぼ同等の国土ですが，今やアジアを飛び越え，世界経済の中心になりつつあります。この背景には様々な要素が影響していますが，1 番の要因はシンガポール政府の力です。

シンガポールの総人口は 531 万人（2012 年 6 月現在）です。内訳は 328 万人がシンガポール国籍を有し，53 万人が永住権保有者，149 万人が外国人です。総人口の約 30%を外国人が占めています。なぜ，これ程までに外国人が多いのかとの疑問に感じることかと思います。その最大の理由が，シンガポール政府が企業誘致の為に導入した税制メリットです。国で定められた法人税は 17%ですが，一定の条件を満たすと無税になるケースもあり，アジア進出を視野に入れる企業にとって，非常に魅力的です。また，税制メリットに加えて，居住環境もシンガポールがアジアの中心になりつつある要因の 1 つです。シンガポールの公用語は英語であり（一部，中国語しか話せない年配の方々はいらっしゃいますが），外国人向けのコンドミニアムや西洋料理のレストランなどが充実しており，欧米人にとっては，シンガポールと同様の税制メリットがある香港よりも生活面で不安がないという点は，大きいと言えます。また，夜に女性が 1 人で街を歩いていても全く問題ない，その治安の良さも，大きな要因でもあると言えます。

また，シンガポールは，隣国のマレーシアとは陸で繋がり，インドネシアとはフェリーなどで容易に行き来できます。ただし，当然ながら，シンガポールで働く為にはビザが必要となりますので，フラフラとシンガポールに入国して居座るということは実質不可能です。人口の約 3 割を占める外国人は，マレーシアや中国などからの出稼ぎ労働者です。シンガポール人が俗に言う「3K」の仕事を避ける為，出稼ぎ労働者は建築関係に必要とされる人材なのです。今，世界的不景気ではありますが，シンガポールの至るところで，商業ビル，商業施設，外国人向けコンドミニアムなどの建設工事が進められています。また，地下鉄の路線拡張計画が 2017 年まで決まっており，その工事も進められており，シンガポールは更なる発展を遂げようとしております。

シンガポール政府の打ち出す税制メリットの条件の 1 つが，発展を続ける理由に大きく影響しています。それは，シンガポール人の雇用です。最低 1 人のシンガポール人を役員に据えることが，現地法人設立の条件としてある上，更なる税制メリットを享受する為には，一定人数のシンガポール人を雇用せねばなりません。従って，

海外の企業が進出することは，外国人労働者が移住し，シンガポール内での支出が期待できると同時に，シンガポール人の雇用機会が発生し，国家単位で潤う仕組みとなっています。

更に，シンガポールはアジア有数の観光地でもあり，多くの観光客が訪れます。また，年間を通じて，各種国際会議や国際展示会なども行われており，ホテル需要が非常に高いです。また，9 月には F1 がシンガポール市街地の道路を使ってレースが行われ，その経済効果は 3 千万ドルとも言われております。更には，シンガポールの空港はアジア最大級のハブ空港でもあります。飛行機乗り換えの僅かな時間でも，空港から市街地まで 30 分という好立地を活かし，観光ビザさえあれば（日本人は不要です），容易に上陸して観光することも可能です。

シンガポールは企業のみならず，多くの人々を誘致することに成功しており，今後も更なる発展が期待できる国であると思われます。そんなシンガポールを，是非体験しにいらしてはいかがですか？ 日本－シンガポール間には 1 日 10 便程の飛行機が飛んでおり，飛行時間 7 時間で到着します。また，シンガポールの空港は飛行機が着陸してから，タクシーで最短で 30 分後にはホテルや自宅に到着できる気軽さです。小野ゼミの合宿も，いつかシンガポールで行われるのでは無いかと期待はしていますが，実現は私が日本に帰任後でお願いしたい次第です。

マーライオンとマリーナベイサン（F1 観戦スタンドから著者撮影）